

## 教員養成フラッグシップ大学 ヒアリング審査 【追加調書】

**大学名：**愛媛大学

**テーマ：**予測困難な社会に対応できる教員養成のための先導的・革新的プログラム

**概要：**学部教職課程「大学が独自に設定する科目」及び教職大学院「共通5領域に代えて大学が設定する新たな領域科目」の特例を活用し、予測困難な社会に対応できる教員養成を指向した先導的・革新的な教員養成プログラムの研究開発5事業を展開する。これらの事業によって得られた知見を、他の教員養成大学・教職大学院や教職課程を有する大学に展開し、フラッグシップ大学として教員養成の在り方を変革していく牽引役となることを目指す。

**構想において取り組む重点テーマ**（該当するテーマの□を☑にしてください）

（教員養成フラッグシップ大学公募要領より抜粋）

- ①学習者中心の授業デザイン・学習活動デザインについての理解増進、ファシリテーターとしての教師の役割についての意識向上
- ②教育学や教師教育学、学習科学に基づく省察的実践（仮説設定、教育実践、省察）を通じて学び続ける教師としての意識・態度の育成
- ③学習者中心の視点に立った教職科目体系の見直し（教科専門を含む）
- ④教師・保護者・地域・専門家等と協働する態度や、協働できる環境を整える組織マネジメントの資質・能力の育成
- ⑤学校現場における教育データサイエンスの活用や STEAM 教育を先導する人材の育成
- ⑥障害のある児童生徒、外国人児童生徒、不登校、経済的に困難な家庭の児童生徒、特定分野に特異な才能のある児童生徒等、多様な子供への理解・対応力
- ⑦学部と教職大学院の一体的な教員養成カリキュラムの検討、現職教員研修（教員育成指標）との連携の在り方の検討

**フラッグシップ大学の特例を用いて新規追加する**

**科目名、単位数、対象学年、科目概要**

| 学部 / 大学院 | 科目名           | 単位数 | 対象学年  | 科目概要   |
|----------|---------------|-----|-------|--|
| 学部       | 地域創生プログラム開発演習 | 2   | 学部4回生 | 愛媛県内小規模市町での学校実習及び地域住民との交流・協働活動により、教職として、地域創生リーダーとして地域づくり（学校・家庭・地域の連携による教育・スポーツ・文化創生）に貢献できる人材を育成する。四国中央市（新宮町）、上島町、松山市、久万高原町、松野町、愛南町等、交流・協働事業の実績のある複数の地域・学校において宿 |

|        |                         |   |                               |  |
|--------|-------------------------|---|-------------------------------|--|
|        |                         |   |                               | 泊型の実習を行う。  |
| 学部&大学院 | チーム学校<br>協働演習           | 4 | 学部 4 回<br>生及び大<br>学院 1 回<br>生 | <p>チーム学校専門スタッフ（準スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、情報通信技術支援員、教員業務支援員、地域学校協働活動推進員、特別支援教育支援員等）の現職及び候補者と、これらの職種の業務内容や効果的実践事例等について学習し、教員との適切な協働の在り方を探究する。本科目は、①地域連携、②教育福祉、③教育相談、④特別支援、⑤改革提案の5つの下位プログラムから構成される。地域連携、いじめ、不登校、特別支援教育等を、教員だけでなくチーム学校専門スタッフ（外部人材）との連携の視点から分析・考察しようとする点に本科目の特徴がある。</p> <p>地域のチーム学校専門スタッフ及び候補者に開放された授業科目であり、主として、土日・長期休業日を利用した通年集中講義の形態をとる。</p> |
| 学部&大学院 | 地域協働型<br>デジタル教<br>材開発演習 | 4 | 学部 4 回<br>生及び大<br>学院 1 回<br>生 | <p>本科目は、①デジタル教材の作り方、②言語社会系デジタル教材開発プログラム、③自然科学系教材開発プログラム、④芸術健康系教材開発プログラム、⑤教科外教材開発プログラム、⑥発表会に向けてのデジタル教材開発演習と発表会の6つの下位プログラムより構成される。</p> <p>履修者（大学院生）と地域の現職教員とで複数のチームを編制し、デジタル教材開発にあたる。各チームには担当教員を配置し、開発過程を支える。地域の小・中学校教員に開放された授業科目であるため、主として、土日・長期休業日を利用した通年集中講義の形態をとる。</p>   |